

甲虫 ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS

No. 72 March 1986



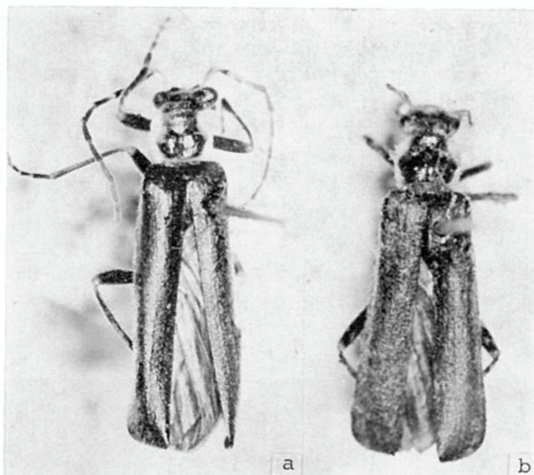
日本産ホタル上科の分類学的覚え書, I*

佐藤 正孝

Cantharidae ジョウカイボン科

日本のジョウカイボン科については, MOTSCHULSKY (1857) がアオジョウカイを記載したのを最初として, KIESENWETTER (1874, '79), HAROLD (1878), LEWIS (1879, '95), PIC (1905-'35) などヨーロッパでの研究が主体で, 日本では松村 (1911), 河野 (1937) による部分的な報告があるにすぎなかった。第2次世界大戦後いち早く, 大林一夫 (1949, '55) はこの類の研究に先鞭をつけたが, 残念なことに1967年に亡くなった。しかしその残された標本, 文献などの資料を, ご子息延夫氏のご好意で全面的に利用することを許された筆者は, この類の研究を開始したのである。いっぽう, 中根 (1963-'81) は, 原色甲虫大図鑑 (北隆館) の執筆に伴なう処理に引き続きこの類の報文を書いている。しかし何と云っても, スイスのパーゼル博物館の WITTMER (1953-'79) の論文は, 世界の属種を扱い, 膨大な数にのぼり, 日本のものにもかなり関係があって見逃すことができない。また同博物館の BRANCUCCI (1985) も研究を進め始めた。幸いにして筆者は, W. WITTMER, M. BRANCUCCI 両博士ともに親しく, 基準標本, 比較標本, 文献などを自由に貸与されるなどの便宜を受け, 日本産種の再検討を進めてきたが, まだかなりの問題が残されている。そこで, 気付いたことを今後本誌の誌面を借りて順次報告していきたい。

Podabrus longissimus PIC キベリジョウカイ
Podabrus longissimus PIC, 1905, Échange, 21 : 113 (Iturup). —KÔNO, 1935, Ins. Mats., 9 : 97. —MAKINO & NAKANE, 1981, Rept. Fac. Sci. Kagoshima Univ., (Earth Sci. & Biol.), 14 : 62. *Telephorus sapporensis* MATSUMURA, 1911, J. Fac. Agr. Tohoku Imp. Univ., 4 : 125 (Chipsani, Tonnaitcha, Shiraraka, Sapporo).



第1図 *Podabrus longissimus* PIC, キベリジョウカイ
 a: Lectotype, b: Paralectotype

PIC (1905) はこの種の記載に当って, 基準産地を“Japon : Iturup”としているが, 実際には千島のエトロフ島のことである。その後, 樺太, 北海道, 本州からも記録されている。いっぽう, 松村 (1911) は千島と札幌の標本に基づいて *Telephorus sapporensis* を記載したが, 河野 (1935) は *P. longissimus* のシノニムとして取り扱った。しかし, 牧野・中根 (1981) はこの類の再検討をしながら, *sapporensis* については何等触れていない。筆者は幸いなことに上記2種の基準系列の標本を検査することができ, 同じ種であることを実際に確かめ得た。なお, *sapporensis* は cotype となっているので, 標本を検査することのできたこの機会に lectotype を指定しておきたい。この標本を検査するに当たっては, 北海道大学の久万田敏夫助教授に大変お世話になったことを記し, ここに厚くお礼申し上げる。

検視標本 : 1頭, Chipsani, 23/vii, Saghalin, Oguma (in coll. Hokkaido Univ. Herewith)

* M. SATÔ, Taxonomic notes on Cantharoidea of Japan, I.

designated as lectotype of *Telephorus sapporensis* MATSUMURA); 1 頭, Sapporo, MATSUMURA (in coll. Hokkaido Univ. Herewith designated as paralectotype of *Telephorus sapporensis* MATSUMURA); 1 頭, Kurilen, Japon (in coll. Mus. Hist. nat. Paris. Type of *Podabrus longissimus* PIC).

***Malthinus kobensis* (LEWIS), comb. nov.**

コウベツマキジョウカイ

Malthodes kobensis LEWIS, 1895, Ann. Mag. nat. Hist., (6) 16 : 115 (Kobé, Kashiwagi).

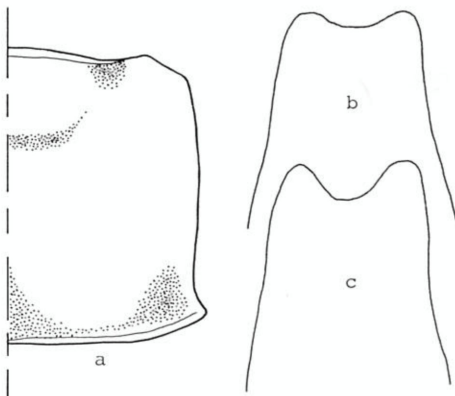
頭部, 前胸背板は黒褐色, 上翅, 触角は暗褐色, 体下面は黄褐色ないし暗褐色, 脚は黄褐色, 頭部は密でしわ状に点刻される。頭頂には縦に長く浅いくぼみがある。大顎には1歯がある。咽喉会合線は明瞭に1本認められる。触角は体長の約1.3倍の長さがある。前胸は長さよりやや幅が広く, 前・後縁は縁取られ, 背面はややでこぼこしており, 密でしわ状に点刻される。上翅は浅くややしわ状に点刻される。第8腹板は顕著でなく, 先端は湾入するが, その度合には変化がある。体長: 4.1-4.7 mm.

この種は, 神戸と柏木産の標本に基づいて LEWIS (1895) によって記載されたが, どうしたことかその後の記録がまったくなかった。大英自然史博物館には原記載に用いられたと考えられる2頭の標本が所蔵されている。その内の1頭はほぼ完全で, “Chuzenji, 19. vii. —24. viii. 81” “Japan. G. LEWIS, 1910-320” “Type H. T.” “*Malthodes kobensis* LEWIS Type” と書かれた4枚のラベルが付けられているが, 産地の Chuzenji というのは原記載と相違する。しかし, LEWIS のラベルはよく気を付けてみると, 裏側にデータが書いてあり, この標本にも “22. 6. 81” とあるので, この日付から G. LEWIS の日本での日程と対照させると原記載にある柏木産の標本と考えられる。中禅寺のラベルは後に誰かが誤って付けたものであろう。もう一方の標本はや

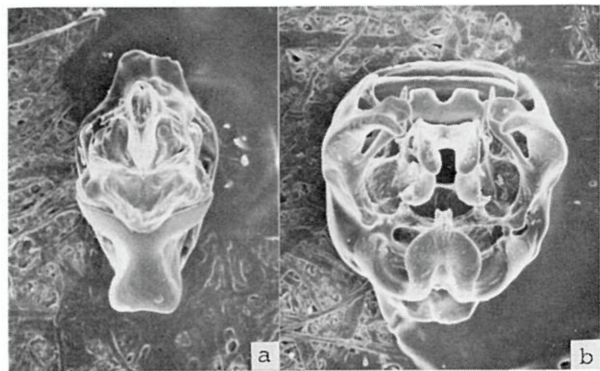
や破損しているが, “Kobe. 6. vi. —9. vi. 81” “Japan. G. LEWIS. 1910-320” “*Malthodes kobensis* LEWIS” と3枚のラベルが付けられており, やはり裏側に “8. 6. 81” のデータが書き込んであるので, これが原記載にある神戸産の標本に相当すると考えられるが, タイプの指定はない。これらのラベルなどのデータについては東京農業大学の鈴木互氏



第2図 *Malthinus kobensis* (LEWIS)
コウベツマキジョウカイ (Holotype)



第3図 *Malthinus kobensis* (LEWIS)
a: 前胸背板 (猪谷産), b: 第8腹板 (猪谷産),
c: 第8腹板 (あまご谷産)



第4図 ♂交尾器
a: *Malthinus kobensis* (LEWIS)
b: *Malthinellus chujoi* (WITTMER)

のご助力を得たもので、厚くお礼申し上げます。

この種は、*Malthodes* 属の種として記載されたが上記した簡単な記載からも明らかのように、大顎、咽喉会合線、第8腹板などの形態から *Malthinus* 属に移した方がよいと考える。なお、九州産の標本を検査することができたので、新分布として記録しておきたい。

檢視標本：1♂, Japan, G. LEWIS, 22. vi. 1881 [Kashiwagi], Chuzenji, 19. viii. 24. viii. 1881 [These data may probably be erroneous] (in coll. British Mus. Nat. Hist. Holotype of *Malthodes kobensis* LEWIS); 1頭, Japan, G. LEWIS, 8. vi. 1881 [Kobe], Kobe, 6. vi. —9. vi. 1881 (in coll. British Mus. Nat. Hist.); 1♂, Idani, Gifu Pref., 23. vi. 1957, N. OHBAYASHI leg.; 1♂, Amago-dani, Gifu Pref., 9. vii. 1947, K. OHBAYASHI leg.; 1♂, Mt. Hiko-san, Fukuoka Pref., 25. vi. 1965, K. TAKENO leg. (New to the fauna of Kyushu).

***Malthinellus chujoi* (WITTMER), comb. nov.**

アマミチビジヨウカイ

Malthinus chujoi WITTMER, 1961, Niponius, 1 (11): 1 (Amami Is.: Santarô Pass).

頭部、上翅は黒褐色・触角、後胸腹板は褐色・前胸、腹部、口器は橙黄色・背面は密な、体下面はやや疎となる灰黄色細毛に覆われる。触角は体長より僅かに短い。咽喉会合線は2重で僅かに認められる。上翅には数条の点刻列がある。体長：3.5—4.1 mm。

この種は、奄美大島で得られた標本に基づいて記載され、holo-, allo-, 2 paratypes が指定されている。その内 holo-, paratype を検査することができたがすべて雌で、他の標本もどうも雌のようである。今回雄を検査することができたが雌との区別点はあまり明瞭でなく、第8腹板の先端が湾入しないだけである。雄交尾器は、この種群の識別には重要であるが、複雑な形態をしているので、走査電顕による全形を示しておいた。

Malthinus 属に含まれる種として記載されたが、咽喉会合線、上翅、雄交尾器などの形態からは、*Malthinellus* 属に移した方がよいと考える。

また、友国雅章氏のご好意で徳之島産の標本を検査することができたので、新分布として記録しておく。

檢視標本：2♀♀, Santarô Pass, Amami-Oshima, 7. v. 1960, T. SHIBATA leg. (Holo- and paratypes of *Malthinus chujoi* WITTMER)., 3♂♂, Ogamiyama, Amami-Oshima, 30. iv. 1977, M. SAKAI leg.; 1♂, Hatsuno, Amami-Oshima, 2. v. 1977, M. SAKAI leg.; 2♀♀, Nishi-Nakama, Amami-Oshima, 25. v. 1973, H. MAKIHARA leg.; 1♂, 2♀♀, Kametoku, Is. Tokuno-shima, 6. 7. iv. 1968, M. TOMOKUNI leg. (New to the

fauna of Is. Tokuno-shima).

***Caccodes niponicus* (KIESENWETTER),**

comb. nov. コバネチビジヨウカイ

Malthodes niponicus KIESENWETTER, 1874, Berl. ent. Z., 18: 281 (Nipon).

Maltypus shirahatai OHBAYASHI, 1955, Ent. Rev. Japan, 6: 51 (Yamagata Pref.: Sakata). Syn. nov.

Caccodes shirahatai: WITTMER, 1957, Mitt. schweiz. ent. Ges., 30: 31.

大英自然史博物館に所蔵されている *Malthodes niponicus* の holotype を検査することができたが、この標本は従来我々が *Caccodes shirahatai* と同定してきた種に相当するものである。また、*shirahatai*



第5図 *Caccodes niponicus* (KIESENWETTER)
コバネチビジヨウカイ (Holotype)

の holo-, paratype を検査することもでき、両種を区別できないことを確かめ得たので、後者を前者のシノニムとして取り扱いたい。さらに、頭楯が前方へ張り出さなく、咽喉会合線が不明瞭となり、大顎に歯があり、上翅が短いなどの特徴は、この種が *Caccodes* 属に含まれることを示している。

檢視標本：1♂, Japan, G. LEWIS (in coll. British Mus. Nat. Hist. Holotype of *Malthodes niponicus* KIESENWETTER); 2♂♂, Sakata, Yamagata Pref., 19. vii. 1949, 9. vii. 1948, K. SHIRAHATA leg. (Holo- and paratypes of *Maltypus shirahatai* OHBAYASHI).

(名古屋女子大学)

ミカンにかかわるヒゲナガゾウムシ類*

妹尾俊男

先日、九州東海大学応用昆虫学研究室の野原啓吾教授のご好意により、鹿児島県北西部の長島に自生するクロシマミカンから得られた多数の昆虫類を検査する機会に恵まれた。その中に5種のヒゲナガゾウムシ科に属する甲虫類が含まれていたため記録しておく。

この一連の調査はミカン樹の害虫とその天敵の研究のために行われたもので、調査地は鹿児島県出水郡東町の加世堂および川床の2箇所である。採集方法は、それぞれの地区から10本ずつ抽出されたミカン樹を、直径42cmの捕虫網を用い、1本の木に付き4枝を選びそれぞれを10回づつ叩き採集された(参照: NAKAO, NOHARA and NAGATOMI, 1977, Appl. Ent. Zool., 12: 334-346)。

報告に先き立ち、貴重な標本を検査する機会を与えられ、公表を快諾された野原啓吾教授に深謝申し上げる。

なお、データ中の丸括弧で示した番号は、ミカン樹の番号で上記の論文と対応している。

1. イトヒゲナガゾウムシ *Exillis japonicola* NAKANE, 1963.

加世堂: 1頭, (9), 23. vii. 1974; 1頭, (10), 5. x. 1978. 川床: 2頭, (14, 20), 26. vii. 1978; 1頭, (19), 23. vii. 1981; 1頭, (13), 28. vii. 1982.

2. アンナヒゲナガゾウムシ *Illis anna* SHIBATA, 1969.

加世堂: 1頭, (2), 26. vii. 1980. 川床: 3頭, (12, 16, 18), 14. vii. 1977; 2頭, (16, 19), 26. vii. 1978; 3頭, (14, 15, 17), 31. vii. 1979; 1頭, (19), 26. vii. 1980; 1頭, (16), 28. vii. 1982.

3. クロホシチビヒゲナガゾウムシ *Unciferina japonica* MORIMOTO, 1981.

加世堂: 2頭, (6, 9), 8. x. 1976; 1頭, (8), 14. vii. 1977; 1頭, (7), 7. x. 1977; 1頭, (8), 3. x. 1980; 1頭, (8), 9. i. 1981; 1頭, (4), 29. x. 1983. 川床: 1頭, (12), 9. i. 1983.

本種は、対馬と福岡から採集された4♀♀の標本

に基づいて記載されたが、上記の8頭も全て雌個体であり、依然雄は未知のままである。

4. コモンヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis guttifer* (SHARP, 1891)

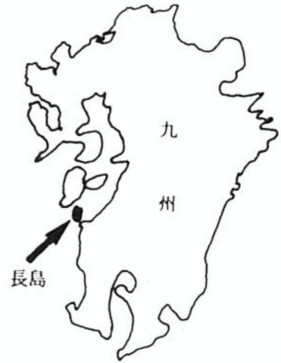
加世堂: 1頭, (8), 28. x. 1981; 1頭, (8), 27. x. 1982. 川床: 1頭, (18), 14. vii. 1977; 1頭, (16), 26. vii. 1978; 2頭, (13, 20), 5. x. 1978; 1頭, (17), 3. x. 1980.

5. ワタミヒゲナガゾウムシ *Araecerus fasciculatus* (DEGEER, 1775).

加世堂: 1頭, (6), 23. vii. 1974; 1頭, (8), 25. iv. 1975; 1頭, (10), 10. i. 1978. 川床: 1頭, (19), 18. x. 1974; 1頭, (12), 25. iv. 1975; 6頭, (12, 14, 17), 26. vii. 1978; 1頭, (13), 26. vii. 1980; 1頭, (18), 23. vii. 1981.

ミカンと関わるヒゲナガゾウムシについては、MORIMOTO (1978) の論文にケチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ *Notioxenus wollastoni* SHARP がナツミカン *Citrus natsudaidai* の枯枝から採集されていることが記されている。また国立林試の榎原寛技官の談話によれば、マキハラノミヒゲナガゾウムシ *Melanopsacus makiharai* MORIMOTO の模式標本は奄美大島に自生するミカン樹のビーターティングで

得られたと云う。平野 (1985) は、落果し腐敗した甘夏ミカンよりクロヒゲナガゾウムシ *Tropideres roelofsi* (LEWIS) を採集記録している。一方、台湾では戦前からミカンの害虫としてミカンヒゲナガゾウムシ *Phloeobius alternatus* (WIEDEMAN) が知られている。(東京農大)



* T. SENOH, Some anthribid-beetles related to the citrus trees.

○ヒメモンナガミズギワゴミムシの関東地方における記録 (ミズギワゴミムシ分布資料 9)

ヒメモンナガミズギワゴミムシ *Bembidion thermoides* NAKANE は東北、中部、近畿地方では比較的採集例があるものの関東地方からの記録がみあたらないためここに報告しておきたい。

1頭, 群馬県赤城山大洞, 7. vi. 1981, 筆者採集。

2頭, 東京都高尾山, 28. x. 1984, 筆者採集。
本種は水辺から離れた所、たとえば山道やガケの石下などにみられるため、多数を得ることはむずかしいようである。(東京都港区, 森田誠司)

日本産歩行虫ノート I:

トゲバネゴモクムシとムネアカスジバネゴミムシの雄について

笠原 須磨生

琉球の八重山諸島に産する珍しいゴミムシ、表題の2種について、これまで未知であった雄の標本を調べることができたので補足的な再記載をしておく。

多大のご助言を頂いた国立科学博物館の上野俊一博士、貴重な標本をご恵与くださった名古屋女子大学の佐藤正孝教授、和泉敬夫氏、松尾照男氏、松永斉大氏に厚くお礼を申し上げる。

なお、この小篇を、元農業環境技術研究所の土生稔申博士に捧げたい。

トゲバネゴモクムシ *Coleolissus (Coleolissus) azumai* HABU (図1~4)

Coleolissus (Coleolissus) azumai HABU, 1973, pp. 216-219, figs. 381-386, pl. 15-fig. 1 (Sonai, Yonaguni Is.).

本種は沖縄県与那国島の祖納で得られた1雌に基づいて記載されたもので、その後まったく記録がなく、個体数はかなり少ないものと思われる。

Coleolissus 属は下唇肢次端節の内側に3本以上の刺毛を生じ、雄の前中跗節下面に2列の粘着毛を有することから Harpalini 族に含まれ、東南アジア、ニューギニア、オーストラリア、ソロモン、ニューヘブリディーズ等に分布する南方系の属である。体は滑沢で、前頭溝は斜め後方へ延び、翅端の会合角に顕著な棘がある。邦産種は上翅の第3間室に数個の小孔点があり、*Coleolissus* 亜属とされる。

雄の記載：体長12.2mm、体幅4.7mm。体は平たく、黒色で光沢が強い。上翅に弱い虹光沢があり、光線の具合で全体にかすかな緑銅色を発する。上唇、大顎、前胸背板の側縁は暗赤褐色。腿節と脛節も暗赤褐色をおびる。口肢、触角、上翅側縁の後半、転節と跗節は褐色。

頭部は比較的小さく、まばらに細点刻がある。上唇の前縁は彎入する（原記載に示された図は彎入していないが、性差か個体差によるものかは不明）。大顎はやや長い。前頭溝は深く、その外側は隆起する。複眼は大きく、半球状。こめかみは短く斜め。

前胸背板は平たく、横位。頭部の1.5倍幅。幅/長は1.6。中央より少し前方でもっとも幅広い。側縁は弧状で前後にはほぼ等しく狭まる。前縁は彎入し、細く縁取られる。前角は丸い。後縁は中央部がわずかに彎入し、両側は斜め。縁取りは完全に側縁の縁取りに続く。後角は鈍く、広く丸まり不明瞭。側縁毛は中央より前方の縁取りの内側に離れて生じる。表面はまばらな細点刻と弱い横しわがある。基部凹陷は浅い円形で密に点刻され、凹陷の外側から側縁毛までの平圧部も点刻される。正中条は細く、端部

は痕跡的に前後縁に達する。前後の横溝は弱い。

上翅は前胸背板の1.3倍幅、3.4倍長。長/幅は1.7。中央より少し後方でもっとも幅広い。側縁は肩部後方から中央部までやや平行状。後半は丸く狭まり、翅端前で軽く彎入する。翅端会合角の棘は鋭い。基縁は軽く波曲し、肩部は丸い。基部小条は長

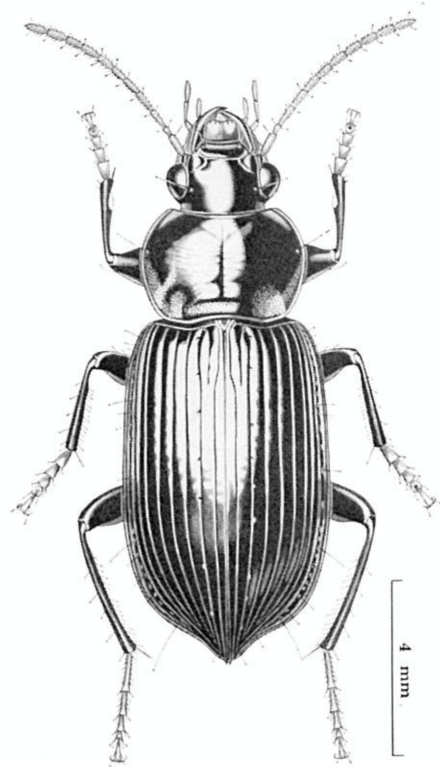


図1. トゲバネゴモクムシ *Coleolissus (Coleolissus) azumai* HABU: 与那国島産 ♂

く、第2条とともに基部孔点から延びる。条溝は滑らかだが底部は微細点刻が強く、ヤスリ状。間室はやや平たく、翅端部では隆まる。まばらな小点刻があり、翅端部の点刻は強い。縁帯末端部はややしわ状。第3間室は第2条に接して7(左)~9(右)の小孔点があり、最前のものは基部孔点の直後にある。

下面は中・後胸腹板の側方が密に強く点刻され、その他も細点刻がまばらにある。腹板末節の後縁は中央が彎入し、両側の刺毛は各2(雌は彎入せず、刺毛は同じく各2)。

* S. KASAHARA, Notes on Japanese ground beetles, I: On the males of *Coleolissus (Coleolissus) azumai* HABU and *Planetes (Planetes) kasaharai* HABU.

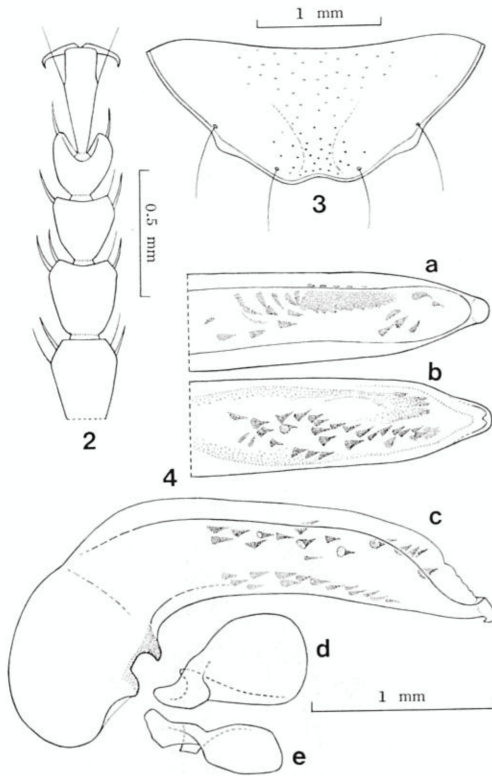


図 2-4. トゲバネゴモクムシ *Coleolissus (Coleolissus) azumai* HABU: 与那国島産 ♂。—2. 右前附節 (毛の一部を省略); 3. 腹板末節; 4. 交尾器: a-c 陰茎; a, 先上部上面; b, 先上部下面; c, 左側面; d, 左側片; e, 右側片。

前附節はあまり拡がらず、第 2 節の長/幅は 1.1。1-4 節下面に 2 列の粘着毛がある。

陰茎は基部が太く、基部開口部の上辺がやや突き出る。先端片は丸く、斜めで、下面中央に基方へ向く鉤がある。内袋は不規則な列状に並ぶ多数のクサビ形骨片をもつ。側片は単純。

検視標本: 1♂, 沖縄県与那国島, 比川, 1. vii. 1985, 田中正浩採集。

ムネアカスジバネゴミムシ *Planetes (Planetes) kasaharai* HABU (図 5-7)

Planetes ruficollis NIETNER: SHIBATA, 1978, p. 102, *Planetes (Planetes) kasaharai* HABU, 1978, pp. 75-79, figs. 27-30 (Ōhara, Iriomote Is.). —笠原, 1980, p. 95. —HABU, 1984, p. 111. —大倉, 1985, p. 178.

本種は沖縄県西表島大原の水銀灯に飛来した 1 雌に基づいて記載されたもので、石垣島でも得られているが多くないようである。因に、原色日本甲虫図鑑 II (大倉, 1985) に図示されたものが正基準標本である。

雄の記載: 体長 8.6-9.0 mm, 体幅 3.1-3.2 mm。

体形や細部の概略は性徴を除き雌と大差がない。前附節の基部 3 節は非相称。第 2 節の長/幅は 1.2 (雌は相称で 1.6)。基部 3 節の下面にクサビ状粘着毛がある。腹部腹板末節の後縁中央は彎入し、その両側の刺毛は各 2 (雌は彎入せず、両側の刺毛は相接して各 6)。

陰茎はあまり彎曲せず、やや単直。先端片は丸く、きわめて狭い。左側片は大きく、卵形。右側片は陰茎に癒着して不可動。中央で彎曲し、先端は丸い。基部 1/3 が陰茎下面に突き出し、陰茎基部の関接突起のように見える。

検視標本: 1♂, 沖縄県石垣島, パンナ岳, 7. v. 1982, T. Irô leg.; 1♂, 沖縄県西表島, 第一山小屋附近, 16. vii. 1982, 松永育大採集。1♂, 沖縄県石垣島, パンナ岳, 19. vii. 1984, 松永育大採集; 1♀, 沖縄県石垣島, パンナ岳, 20. vii. 1984, 松永育大採集。

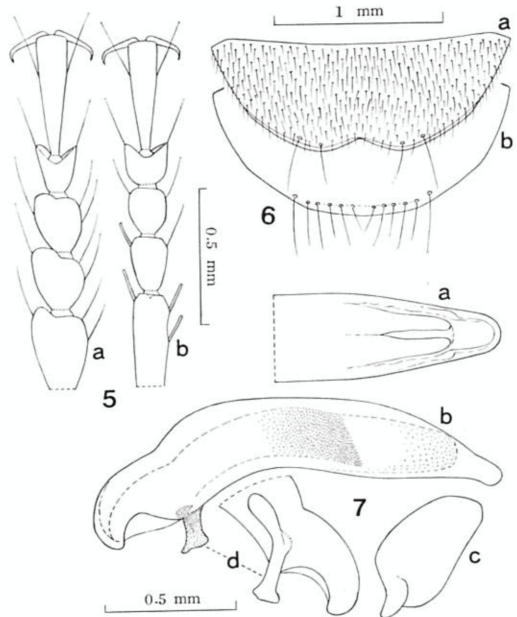


図 5-7. ムネアカスジバネゴミムシ *Planetes (Planetes) kasaharai* HABU。—5. 右前附節 (毛の一部を省略); a, 雄; b, 雌; 6. 腹板末節: a, 雄; b, 雌 (細毛を省略); 7. 雄交尾器: a-b, 陰茎; a, 先上部上面; b, 左側面; c, 左側片; d, 右側片

参考文献

- HABU, A., 1973. Carabiae: Harpalini (Insecta: Coleoptera). *Fauna Japonica*: i-xii + 1-430, pls. 1-24. Keigaku Publ., Tokyo.
—1978. Some rare species of ground-beetles found by Mr. S. KASAHARA in the Ryukyus. *Ent. Rev. Japan*, 32: 61-80.
—1984. Revised and supplementary notes on and descriptions of the truncatipennes group

of Japan (IV) (Coleoptera, Carabidae). *Ibid.*, 39: 101-139.

笠原須磨生, 1980. 八重山諸島で採集した歩行虫類. 北九州の昆虫, 26: 61-80, pls. 11-12.

大倉正文, 1985. オサムシ科: スジバネゴミムシ亜科. 上野俊一ほか(編) 原色日本甲虫図鑑 2: 174-178. 保育社, 大阪.

SHIBATA, T., 1978. Notes on the carabid-beetles of Japan, II (Coleoptera). *Ent. Rev. Japan*, 31: 102. (千葉県船橋市)

○福井県未記録の甲虫 2 種について

1. マダラコガシラミズムシ(コガシラミズムシ科) マダラコガシラミズムシ *Haliplus* (*Liaphlus*) *sharpi* WEHNCKE は, 日本(本州・四国・九州)および中国に分布し, 我が国では比較的少ない種のようなのである。福井県からのコガシラミズムシ科の記録は, 福井県昆虫目録(1985)によるとクビボソコガシラミズムシ *H. (Haliplus) japonicus* およびコガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* の 2 種のみが挙げられており, 本種の記録が無いので分布資料として報告する。

本種は, コガシラミズムシ科の他の日本産種とは上翅黒紋がよく発達する等の点から容易に識別できる。

1 ♀, 福井県敦賀市新保(標高約 400 m), 29. vii, 1982, 松本俊信採集。

溪流脇に設置したライトトラップに飛来したものを採集したとのことである。

2. シベリアマルガタゴミムシ(オサムシ科) シベリアマルガタゴミムシ *Amara* (*Bradytus*) *majuscula* CHAUDOIR は, 中国北部, シベリアからヨーロッパにかけて広く分布する北方系の種で, 日本からは土生(1978)により初記録され, 北海道および東北地方北部 3 県から知られている。水辺に近い草地に見られる種で走光性が強く, 旭川地方(北海道)では夏季にかなりの個体が燈火に飛来する。東北地方北部でも, 燈火や耕作地(特に水田)脇の枯草の下などを探せば少ないながらも発見することができる。

今回, 福井県産の本種の個体を検する機会を得たので福井県初記録および日本における南限の記録として報告する。

1 ♂, 福井県敦賀市池ノ河内(標高約 300 m), 30. vii, 1982, 松本俊信採集。

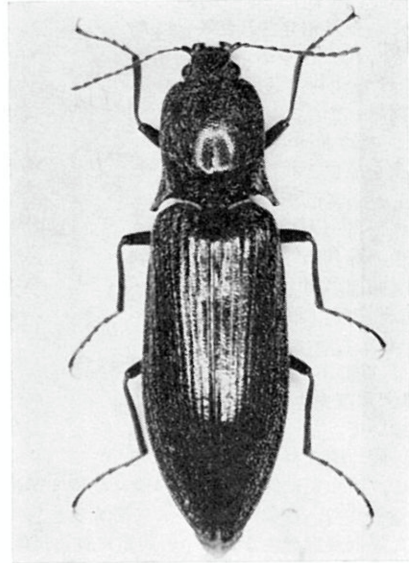
池ノ河内は筈ノ川の源流部に形成された盆谷で, 阿原ヶ池を中心とする小規模な湿原がある。採集地はこの池ノ河内湿原の近くで, 水田脇に設置したライトトラップに飛来した個体を採集したとのことである。

末文ながら貴重な標本を恵与して下さった松本俊信氏に深謝する。(北海道旭川市, 松本英明)

○イヨオオヒラタコメツキの雄の記録

イヨオオヒラタコメツキは 1962 年 8 月 10 日愛媛県ヤカマ村で採集された 1 ♀ 個体に基づいて KISHII

(1982) によって *Paraphotistus iyoensis* という学名で記載された種類である。その後, 本種は *Paraphotistus* 属が岸井(1985)によって *Aphotistus* 属の亜属に格下げされたのに伴ない属が変更されたが, 追加個体としての記録はまったくなく, 雄は未知であった。最近筆者の手元の標本を調べたところ, 未同定の標本の中に本種のみと思われる個体が 2 頭含まれていたのこここに雄の採集例として報告しておく。



オオヒラタコメツキ♂ 山梨県丸山林道産

1 ♂, 静岡県南アルプス二軒小屋, 1. viii. 1967, 酒井香採集; 1 ♂ 山梨県丸山林道, 28. v. 1982, 小林信之採集。

貴重な標本をご提供下さった酒井香, 武田雅志の両氏に深くお礼申し上げます。(東京農大, 鈴木 互)

○クロツヤツツヒラタムシ石垣島の記録

クロツヤツツヒラタムシ *Hectarthrum sociale* WATERHOUSE は現在までに奄美大島, 宮古島, 波照間島の三島から分布記録があるようであるが, 筆者は石垣島産の標本を検しているので分布資料として記録しておく。

1 頭, 石垣島嵩田, 5. ix. 1984, 花谷達郎採集。

末筆であるが, 標本を恵与された石垣島在住の花谷達郎氏に心からお礼申し上げます。

(東京都世田谷区, 沢田和宏)

○ハッカハムシの加害植物の追加

本誌 69 号に黒沢良彦博士がハッカハムシの加害植物 3 種を記録しておられるが, 私も, 青森県北津軽郡中里町竹田の岩木川河川敷で 1985 年 6 月 10 日にエゾシロネ *Lycopus parviflorus* MAXIM. の葉を食べている多数のオオルリハムシに混って本種 1 頭を採集したので記録しておく。

(青森県弘前市, 長内 淳)

○ホソフタホシメダカハネカクシの幼虫

メダカハネカクシ類 *Stenus* の幼虫については SCHIÖDTE (1872), BÖVING & CRAIGHEAD (1931), WELCH (1965), KASULE (1966), POTOCKAJA (1967) らの論文に記録されているが、その特異な形態が注目される。

日本産の種類については、これまでに幼虫が紹介されたことはないと思われる。筆者は 1985 年 5 月 11 日、川崎市登戸付近の多摩川 (河原) でホソフタホシメダカハネカクシ *Stenus alienus* SHARP の幼虫を成虫と共に採集したので図示した。長い小顎鬚はどのような機能を持つのか甚だ興味深い。

幼虫の体長約 5 mm. A: 幼虫背面 (頭部の前方の 1 対は触角); B: 頭部腹面 (単眼は各側面に 6 個). C: 右触角腹面

(横浜市北区, 林 長閑)

◇「黒沢良彦先生退官記念論文集」について

長い間、国立科学博物館に在職されて、甲虫類に関する多くの優れた研究業績を残されると共に、多数のアマチュア研究者を育ててこられた黒沢良彦先生が、停年の規定に従って昭和 61 年 3 月末日をもって退官されました。これを機会に、甲虫談話会では黒沢先生とゆかりの深い、あるいは日頃ご指導をいただいている研究者からそれぞれの専門分野でのオリジナル原稿をお寄せいただき記念出版物を刊行致しました。

記念出版物は B 5 版、342 頁で、その内容は黒沢先生の経歴、業績目録 (1936~1985) および各専門家による 44 編の原著論文で構成され、業績目録以外はすべて欧文で書かれています。甲虫関係ではナガヒラタムシ、オサムシ、シデムシ、ハネカクシ、クワガタムシ、コガネムシ、タマムシ、コメツキムシ、シバンムシ、ジョウカイモドキ、ホソカタムシ、ゴミムシダマシ、ハナノミ、カミキリムシ、ハムシ、ヒゲナガゾウムシ、ゾウムシ等の多岐の科にわたり、多くの新種が記載されていて、甲虫研究者にとって

はきわめて重要な内容となっています。

出版物は「黒沢良彦先生退官記念事業協力金」を拠出された方々には既に配布されましたが、拠出者以外に必要な方は「TTS 昆虫図書」を通じて購入することができます (頒布価格 ¥ 8,000 送料別)。

◇第 3 回 (甲虫談話会) 採集会のお知らせ

6 月の第 2 日曜日 (8 日) に群馬県の霧積温泉にて第 3 回の採集会を予定しています。詳細は追って御連絡申し上げますので、奮ってご参加下さいますようお願いいたします。(世話人一同)

甲虫談話会

会費 (一ケ年) 3000 円、次号は 8 月下旬発行予定

投稿メ切は 7 月 31 日

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥ 5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3 個以下 ¥1,300, 4 個以上 ¥850 (以下同様), 第 2 地帯 ¥1,500, ¥950, 第 3 地帯 ¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

タツミ製作所

〒 113 東京都文京区湯島 2-212-25

電話 (03)811-4547, 振替 6-113479

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5 号 (各号 100 本 180 円)

なお、有頭針 00, 0 号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えています。

〒 150 東京都渋谷区渋谷 1 丁目 7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社